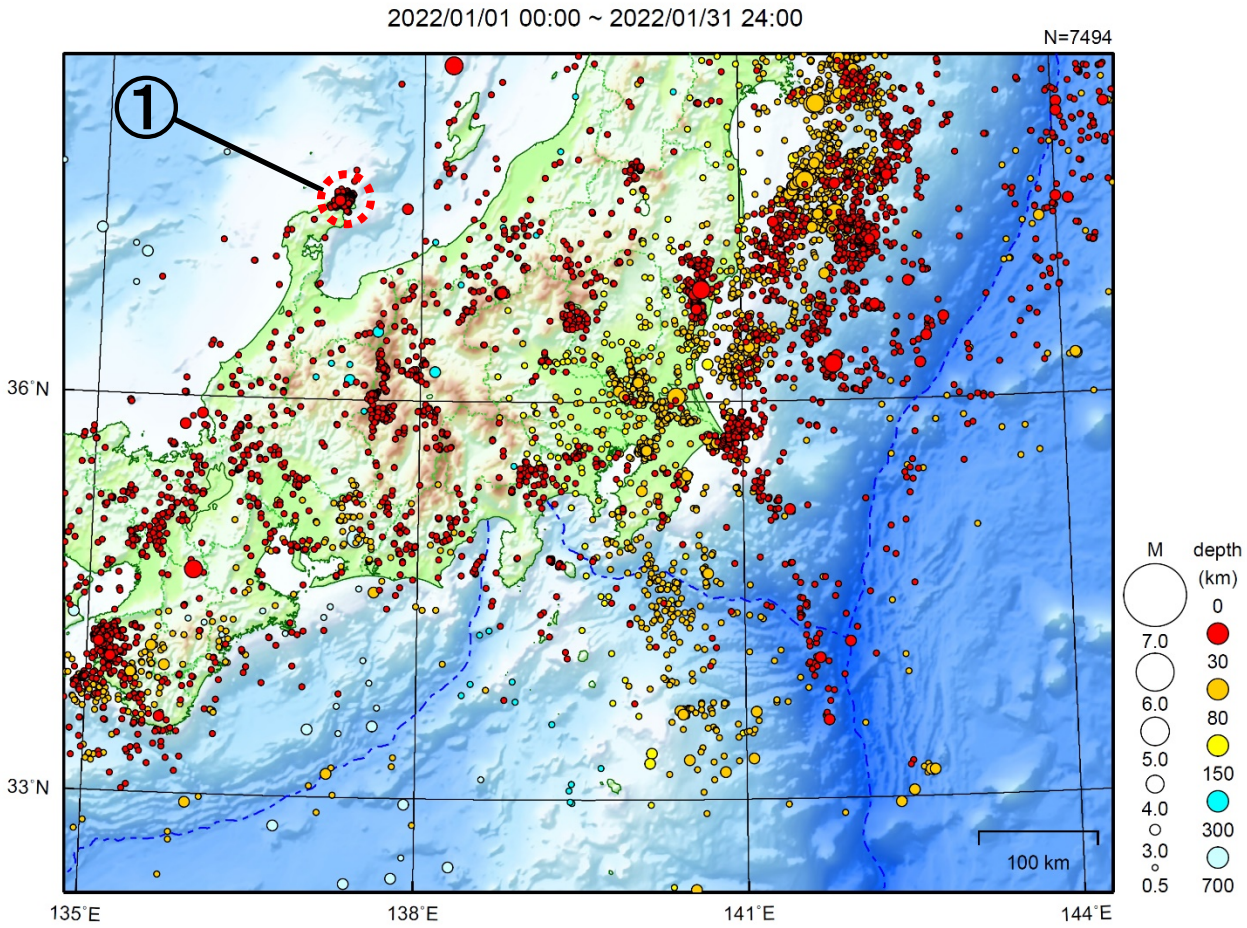
関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

① 石川県能登地方では１月中に最大震度１以上を観測した地震が６回（震度２：３回、震度１：３回）発生した。

能登半島沖で発生した地震1回を含む。

（上記領域外）

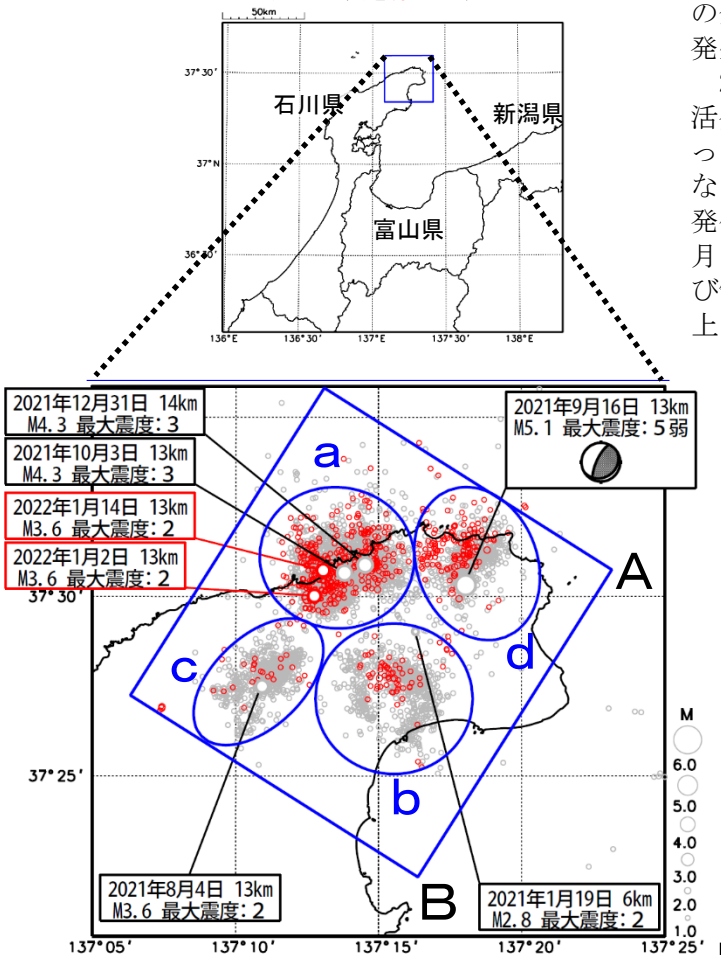
１月４日に父島近海で M6.1 の地震（最大震度５強）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。］

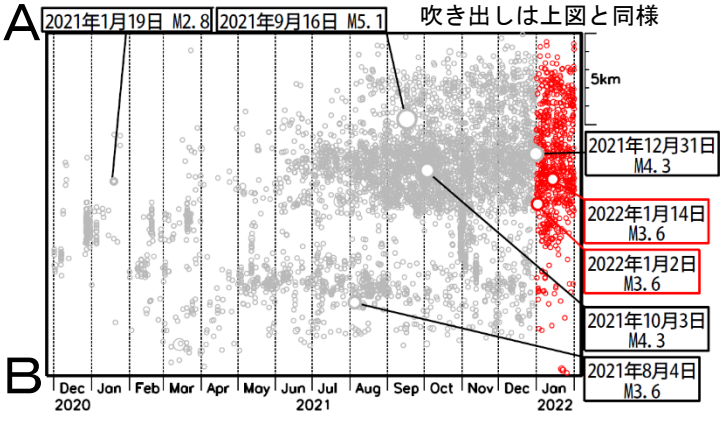
気象庁・文部科学省

石川県能登地方の地震活動

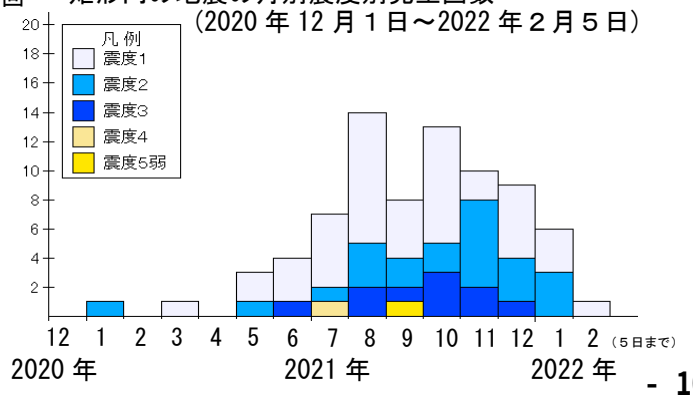
震央分布図
（2020 年 12 月 1 日～2022 年 1 月 31 日、
深さ 0～25km、M≧1.0）
黒色の吹き出しは各領域（a～d）内で最大規模の地震
赤色の吹き出しは矩形内で 2022 年 1 月中の最大規模の地震
2022 年 1 月の地震を赤色で表示



上図矩形内の時空間分布図（A－B投影）
吹き出しは上図と同様



矩形内の地震の月別震度別発生回数
（2020 年 12 月 1 日～2022 年 2 月 5 日）



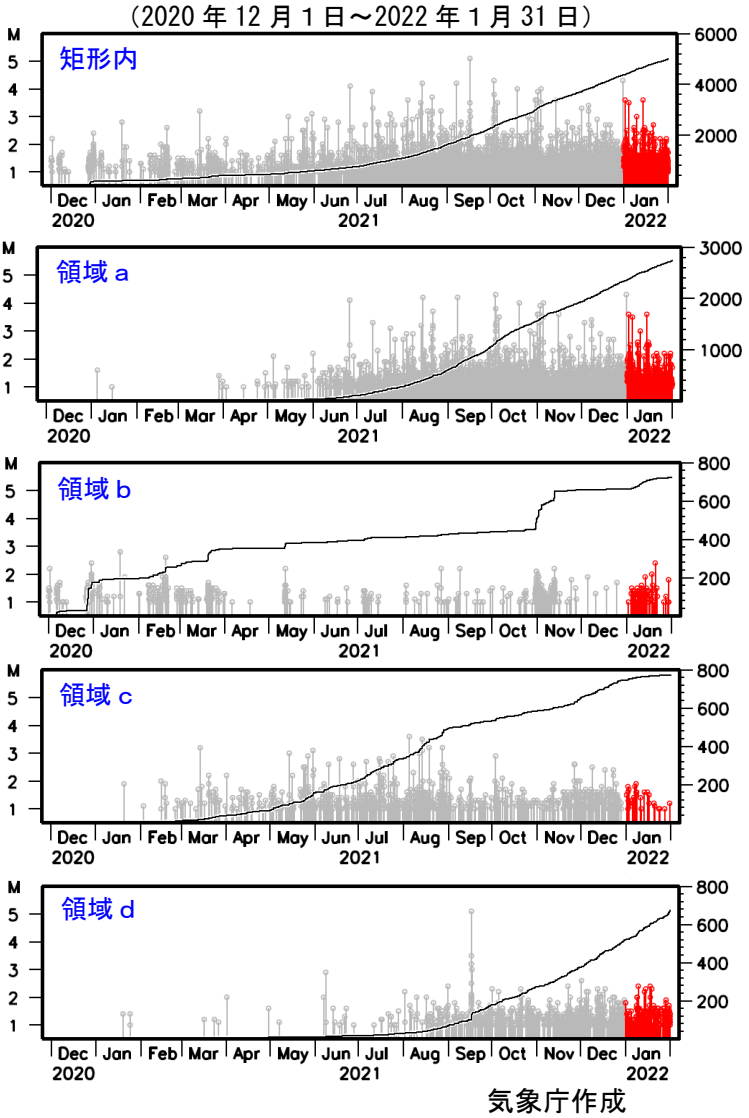
石川県能登地方（拡大図の矩形内）では、2018 年頃から地震回数が増加傾向となり、2020 年 12 月から地震活動が活発になった。2022 年 1 月中もその傾向は継続している。2022 年 1 月中の最大規模の地震は、2 日及び 14 日に発生した M3.6 の地震（ともに最大震度 2）である。なお、活動の全期間を通じて最大規模の地震は、2021 年 9 月 16 日に発生した M5.1 の地震（最大震度 5 弱）である。

2020 年 12 月以降の領域別の地震活動をみると、最初に活発化した領域 b の活動は、2021 年 4 月以降鈍化傾向であったが、2021 年 10 月末から 11 月中頃まで一時的に活発になり、2022 年 1 月中もやや活発になった。領域 b に続き活発化した領域 c の活動も一旦鈍化がみられたが、2021 年 12 月にやや活発になった。一方、遅れて活発化した領域 a 及び領域 d の活動は依然活発である。矩形領域内で震度 1 以上を観測した地震の回数は以下の表のとおり。

期間別・震度別の地震発生回数表

期間	震度					
	1	2	3	4	5弱	計
2020 年 12 月 1 日～2021 年 12 月 31 日	39	19	10	1	1	70
2022 年 1 月 1 日～31 日	3	3	0	0	0	6
2022 年 2 月 1 日～5 日	1	0	0	0	0	1
計	43	22	10	1	1	77

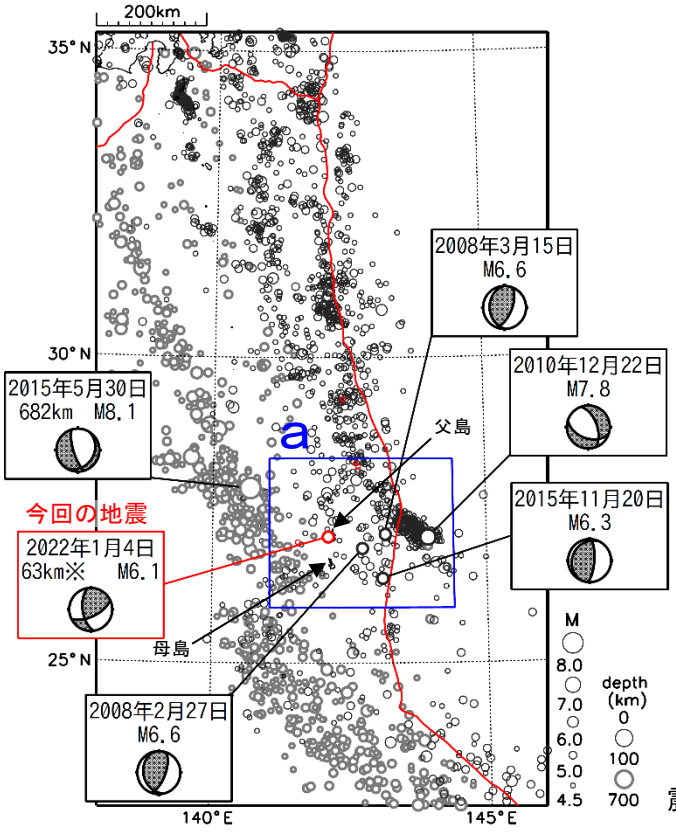
左図矩形内及び領域 a～d 内の
M－T 図及び回数積算図
（2020 年 12 月 1 日～2022 年 1 月 31 日）



気象庁作成

１月４日　父島近海の地震

震央分布図
（1997 年 10 月１日～2022 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧4.5）
2022 年１月の地震を赤く表示
100km より浅い地震を濃く表示
図中の発震機構は CMT 解

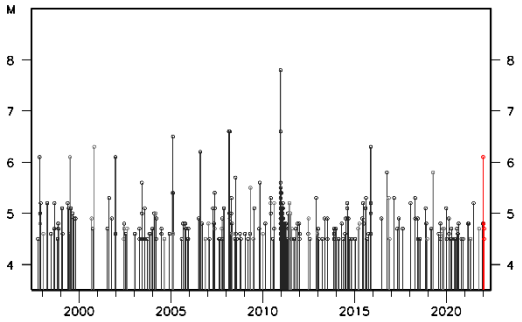


※今回の地震の深さは CMT 解による
赤線は海溝軸を示す。

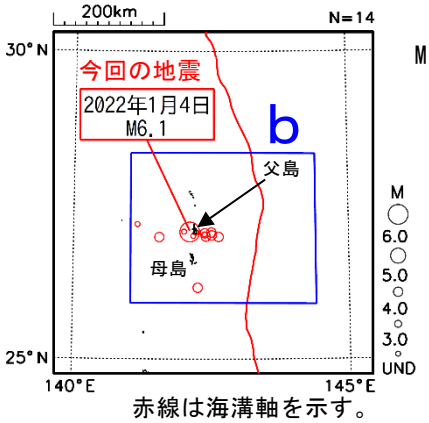
2022 年１月４日 06 時 08 分に父島近海の深さ 63km（CMT 解による）で M6.1 の地震（最大震度５強）が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した。発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。この地震以降、１月中に震度１以上を観測した地震は、領域ｂ内で 14 回（震度５強：１回、震度２：３回、震度１：10 回）発生した。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域ａ）では、M6.0 以上の地震が時々発生している。2010 年 12 月 22 日の M7.8 の地震（最大震度４）では、この地震により津波が発生し、八丈島八重根で 0.5m 等の津波を観測した。

領域ａ内のＭ－Ｔ図

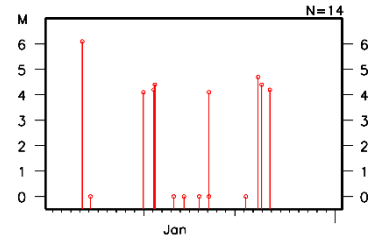


震度１以上を観測した地震の
震央分布図
（2022 年１月、深さ０～700km、M すべて）
M 不明の地震は M＝0 として表示

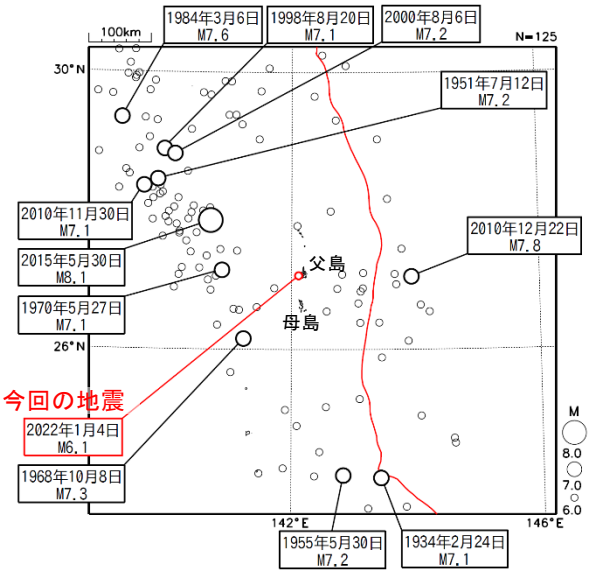


赤線は海溝軸を示す。

領域ｂ内のＭ－Ｔ図
M 不明の地震は M＝0 として表示



震央分布図
（1919 年１月１日～2022 年１月 31 日、
深さ０～700km、M≧6.0）



赤線は海溝軸を示す。

1919 年以降の活動をみると、小笠原諸島周辺では、M7.0 以上の地震が時々発生している。2015 年５月 30 日の深さ 682km で発生した M8.1 の地震（最大震度５強）では、この地震により関東地方で軽傷者８人等の被害が生じた（総務省消防庁による）。また、1984 年３月６日の M7.6 の地震（最大震度４）では、この地震により関東地方を中心に死者１人、負傷者１人等の被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。

気象庁作成